三好市西祖谷山村の民家

民家班（日本建築学会四国支部徳島支所）

喜多　順三[1*]　高田　哲生[2]　田村　栄二[3]　林　茂樹[4]　福田　頼人[5]

要旨：特徴的な民家の宝庫として古くから注目され，民家の調査研究が盛んに行われてきた祖谷地方であるが，対象となったのはほとんどが旧東祖谷山村であり，西祖谷山村の民家の調査研究は十分に行われてきたとはいえない。そこで，西祖谷山村内に現存する85戸の茅葺き民家を悉皆的に調査し，可能なものについては間取りの採取や建築時期，構法の確認などを行った。間取りに関しては，祖谷地方に典型的な一間取，横二間取，中ネマ三間取のほか，土間を設けず居室を横一列に配置する二間取，三間取と呼べるような民家がかなりあることが明らかになった。構法については，「ヌキダチ」「マエガマエ」は確認されたが，調査事例が限られたため，「コキバシラ落とし込み構法」は確認することができなかった。調査目的に掲げていた編年指標については，建築時期を特定できた民家が少なかったこともあり，今後の課題としたい。

キーワード：茅葺き民家，間取り，ヒシャギ竹，前便所，民家の構法

1．はじめに

祖谷地方は特徴的な民家の宝庫として古くから注目され，緊急民家調査を始め，様々な民家に関する調査研究が行われている（**図1**）。しかし，そのほとんどは旧東祖谷山村を対象としたものであり，西祖谷山村の伝統的民家の実態は十分に把握されているわけではなかった。

図1　集落遠景

そこで，三好市西祖谷山村管内に現存する茅葺き民家の実態把握を目的に，その残存状況の確認と，緊急民家調査（1973～75年），東祖谷山村民家調査，三好市東祖谷阿波学会総合学術調査（2006年）などの既往調査により得られた祖谷型民家の特徴や編年指標などの知見の検証を行うこととした（**表1**）。

氏名	規模 桁×梁	オモテ前面 入側縁	オモテ前面 柱数	ネマ 間口	ネマ 室数	ネマ 入口	ナカノマ 土間境	上屋柱数 全*1	上屋柱数 下手妻*2	コキ柱	桁行梁と柱仕口	梁行梁の配置	内法	内法・上屋梁間
	間 間			間									m	m
No.1 木村　巧家 元禄12	8 × 4	有	2	2	1	片引戸	片引戸	19	4,	なし	鼻栓	等分	1.72	1.32
No.2 喜多　丈夫家	7 ×3.5	有	2	1.5	1	片引戸	開放	19	3	なし	鼻栓	等分	1.71	0.96
No.3 瀬本　一美家	6.5×3.5	有	0	1.5	1	片引戸	開放	16	2	なし	鼻栓	等分	1.73	1.18
No.4 藤本　徳義家	6 ×3.5	有	1	1.5	1	引違戸	引違戸	16	1	なし	折置	非	1.73	1.25
No.5 太田　功家	6.25×3.5	有	1	1.5	1	引違戸	引違戸	16	1	なし	折置	非	1.76	1.20
No.6 宮内順太郎家	7.5×3.5	有	2	2	2	引違戸	引違戸	16	1	なし	折置	非	1.76	1.52
No.7 森下　義雄家	7.5×3.5	有	0	2.5	2	引違戸	引違戸	14	1+〔1〕	なし	折置	非	1.77	1.47
No.8 西岡　久光家 天保3	8 × 4	有	1	2	1	引違戸	引違戸	17〔7〕	1+〔1〕	有	折置	等分	1.76	1.60
No.9 久保　孫市家 文久3	7.25×3.5	なし	1	2	2	引違戸	引違戸	11(6)	0+◎	有	折置	非	1.76	1.44
No.10 小栗　春蔵家 天保	5.5× 3	なし	0	—	—	—	—	9〔6〕	〔1〕	有	折置	等分	1.66	1.45
No.11 中石　一美家	5.5×3.3	なし	0	—	—	—	—	9〔6〕	〔1〕	有	折置	非	1.76	1.30

＊1　〔　〕内は全上屋柱のうちのコキ柱の数，（　）は同デコ柱数　＊2　〔　〕内はコキ柱数，○内はクダ柱数
＊3　間取は No.1～No.9 は中ねま三間取，No.10，11 は一間取

表1　祖谷民家編年表（『阿波の民家』より）

先ず，1次調査として管内の茅葺き民家を悉皆的調査し，その残存状況と外観上の特徴等を把握し

1　空間計画研究所　2　佐藤建築企画設計　3　田村栄二一級建築士事務所　4　（株）林建築事務所
5　くすのき建築研究所
＊　〒770-0863　徳島市安宅１－５－11　jkita@nifty.com

た。なお，現地調査に先立ち，インターネットの地図検索ソフトを利用し，茅葺き民家の分布状況を確認することができたため，効率的な調査ができた。

１次調査の調査票を**図２**に示す。外観上の特徴のほか，内部については間取り，二間半を３分割する五尺間の有無，内法上部の仕様の確認などを行った。

No.		調査日	2017年　月　日
所在地		地図ページ	
氏　名		写真番号	
屋根仕上	茅　トタン（青・赤・銀・黒・他：　　）他（　　）		
屋根形状	寄棟　切妻　他（　　）	下屋形式	四方　他（　　）
勝　手	右　左　他（　　）	寸　法	間口　　間 × 奥行　　間
玄関構え	有　無　他（　　）	間　取	
外　壁	大壁・真壁　当初の仕上（　　）		
外部建具	障子　木製ガラス戸　アルミサッシ　他（　　）		
建築時期	（棟札・聞取）	主屋方位	
敷地形状	平坦地　傾斜地（　　向）	利用形態	居住　空家　他（　　）
屋敷構え	平野型　山村型　その他	便所位置	前　妻側　他（　　）
付属建物	厩　納屋　蔵　離れ　その他（　　）		
備　考			
大黒柱	有（　　×　　）無　不明	内法寸法	mm
オモテ規模	間口　　間 × 奥行　　間	内法上部	差鴨居　長押　不明
五尺間	・梁間　　・桁行	軒裏	現し　軒張　出桁

図２　調査票

２次調査では特徴的な民家の詳細調査を行い，間取り等の図面採取や棟札の確認を行うこととしたが，棟札を確認できた民家はなかった。また，小屋組や軸組，構法を確認することで，これまでの編年指標などの検証を行うことを目的とした。

なお，祖谷地方では，茅葺き屋根の小屋組を改造し，勾配の緩い金属屋根に変更する「小屋下げ」が多く行われていることが知られるが，外観だけでは小屋下げの有無を確認することが困難なため，今回の調査対象から外している。

２．三好市西祖谷山村の茅葺き民家の分布

三好市西祖谷山村の茅葺き民家の分布図を**図３**に，調査データを**表２～３**に示す。

１次調査の結果，98棟の茅葺き民家を確認したが，アクセス道路が荒れていて近づけないなど，外観調査ができなかった民家が13棟有り，調査対象民家は85棟であった。このうち，居住中と判断されたものは40棟，他は空き家と考えられ，中には廃屋に近いものも見られた。

字別の民家数は**表４**の通りで，下吾橋（しもあはし），善徳，田の内などに多く残っている。

なお，航空写真から茅葺き民家と予想されるものでも，住宅地図にアクセス道路がないなど，調査が困難と判断されたものは，あらかじめ調査対象外とした。

字　名	残存民家数	調査民家数	調査不能民家数
有瀬	7	7	
一宇	2	2	
後山	3	3	
尾井ノ内	2	2	
上吾橋	5	5	
閑定	4	3	1
小祖谷	7	6	1
坂瀬	1	1	
重末	3	2	1
下吾橋	19	17	2
下名	1	1	
善徳	17	14	3
田の内	12	9	3
徳善	2	2	
戸ノ谷	4	3	1
中尾	4	3	1
西岡	2	2	
東西岡	1	1	
冥地	2	2	
合計	98	85	13

表４　字別茅葺き民家の状況

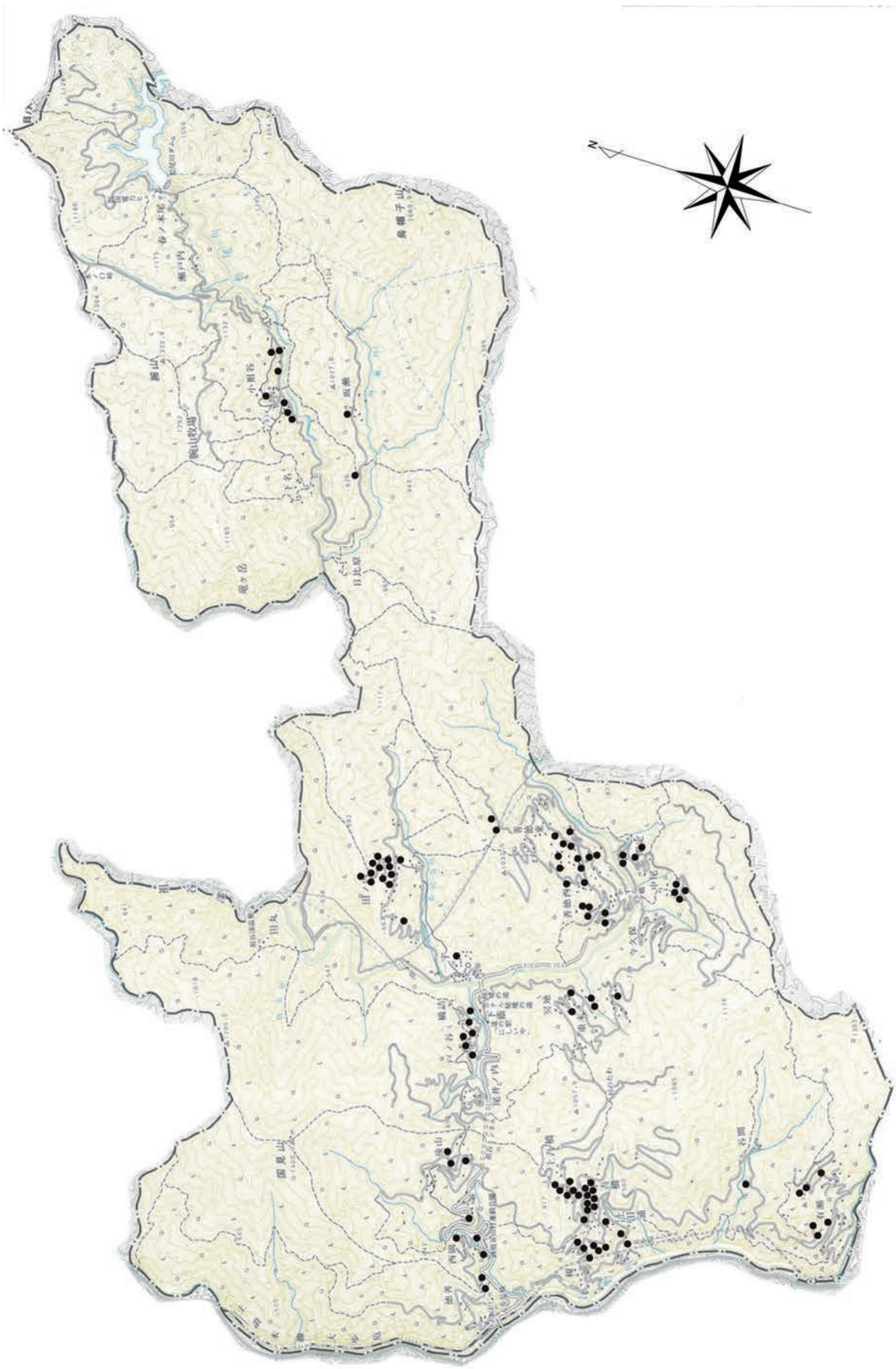

図 3　調査民家分布図

表2　調査民家データ一覧－1

所在地	No.	屋根仕上	屋根形状	下屋形式	勝手	玄関構え	間取り	規模		外壁		外部建具	建築時期	主屋方位	利用形態	屋敷構え	便所位置	モテ規模		内法上部	五尺間		軒裏	備考
								間口	奥行	形式	当初仕上							間口	奥行		梁間	桁行		
有瀬	1	トタン	寄棟	3	左	無	中ネマ三間取	6.0	3.5	大壁	,土壁	アルミ		S	居住	山村		2.5	2.5	差鴨居			現し	屋根のトタン：S45年
有瀬	2	スレート瓦	寄棟	1	右	無		6.0	3.5	大壁	杉板	アルミ		S	居住	山村								
有瀬	3	トタン	寄棟	3	右	無		6.0	3.0	真壁		アルミ		S	空家	山村							現し	土間なし（隠居屋？）
有瀬	4	トタン	寄棟	1	右	無	一間取	6.0	3.0	真壁	杉板+ひしゃぎ竹	木製ガラス		S	居住	山村		2.5	2.5			○	現し	かつて前便所
有瀬	5	トタン	寄棟	1	右	無	横二間取	6.0	3.0	真壁	ヒシャギ竹	アルミ		S	居住	山村								かつて前便所、一間取りを増築
有瀬	6	トタン	寄棟	－	無	無		6.0	3.5	真壁		不明		S	居住	山村							軒張	
有瀬	7	トタン	寄棟	3	左	無	横二間取	5.0	3.0		土壁	アルミ		SW	居住	山村		2.5	2.5			○		
一宇	1	トタン	寄棟	－	無	無		6.5	3.0			アルミ		S	空家	山村							出桁（四方）	
一宇	2	トタン	寄棟	3	左	無		5.5	2.5			木製ガラス		S	空家	山村								
一宇	3	トタン	寄棟	1	左	無	中ネマ三間取	5.5	3.0		土壁	アルミ		S	居住	山村	前	2.5	2.5	長押		○	出桁	ヌキダチ、前固め
一宇	4	トタン	寄棟	2	右	無	中ネマ三間取	6.0	3.0			木製ガラス		S	居住	山村		2.0	2.5					前便所があった
一宇	5	トタン	寄棟	1	左	無		6.0	3.5			アルミ		S	空家	山村								
一宇	6	トタン	寄棟	1	無	無	二間取	6.0	3.0				大正	S	空家	山村	前	2.5	2.0					
一宇	7	トタン	寄棟	2	右	無		6.0	3.5	真壁		アルミ		S	空家	山村	前							
一宇	8	トタン	寄棟	1	右	無		5.5	3.0	真壁		不明		S	空家	山村	前							
一宇	9	トタン	寄棟	－	左	後付け		5.5	3.5			アルミ		S	空家	山村							軒張り	
一宇	10	トタン	寄棟	2	左	無	中ネマ三間取	6.5	3.5			アルミ		S	空家	山村		2.0	2.5				軒張り	出桁（二方）
一宇	11	トタン	寄棟	3	無	無		5.5	3.5	真壁		アルミ		W	空家	山村								腰に横板張り
後山	1	トタン	寄棟	3	無(昔は左)	無		5.5	－			アルミ		W	空家	山村								
後山	2	トタン	寄棟	1	左	無	一間取り	4.5	3.0			アルミ		S	居住	山村								
後山	3	トタン	寄棟	3	右・妻入り	無	中ネマ五間取	6.5	3.5	真壁	土壁	アルミ		S	居住	山村								一間取りをS30年頃増築五間取りに
尾井ノ内	1	トタン	寄棟	－	右	無		7.5	3.5			アルミ	－	S	居住	山村							出桁	
尾井ノ内	2	トタン	寄棟	－	無(昔は左)	無		6.5	3.5			木製ガラス戸		S	居住	山村	前							
上吾橋	1	トタン	寄棟	3	左	無		5.0	3.0			アルミ		S	空家	山村								
上吾橋	2	トタン	寄棟	1	左	無	三間取	7.0	3.0	真壁	土壁	アルミ	昭和2	S	居住	山村	前	2.5	2.0					横一列の三間取
上吾橋	3	トタン	寄棟	2	左・妻入り	無	中ネマ三間取	6.5	3.5	真壁	土壁	アルミ	昭和2	S	居住	山村		2.5	3.0					
上吾橋	4	スレート瓦	寄棟	2	右	無	二間取	6.5	3.5		板張り	アルミ	S2	SE	居住	山村		2.0	2.0					
上吾橋	5	トタン	寄棟	1	右	無	喰い違い四間取	7.5	3.5			アルミ	明治20	E	居住	山村	前	2.0	3.0					
上吾橋	6	トタン	寄棟	1	左	有		7.5	3.5	真壁	漆喰	アルミ		S	空家	山村								
上吾橋	7	トタン	寄棟	－	左	無	中ネマ三間取	6.5	3.0	大壁	ヒシャギ竹+杉皮	アルミ		S	居住	山村		1.5	2.0					前固め有り
閑定	1	トタン	寄棟	3	右	無		6.5	－			板戸(雨戸)		N	空家	山村	前							
閑定	2	トタン	寄棟	－	左	無		6.0	3.0			不明	大正	NW	空家	山村	前						現し	S40年頃、茅葺き替えした。
閑定	3	スレート瓦	寄棟	1	左	無	横三間取	6.5	3.5	－		アルミ		NW	旅館	山村								87-2831
小祖谷	1	トタン	寄棟	2	右	無		5.5				木製ガラス		S	空家	山村	妻側							
小祖谷	2	トタン	寄棟	－	左	無		6.0	3.0			木製ガラス		S	空家	山村							現し	
小祖谷	4	トタン	寄棟	3	右	無		5.5	3.0	大壁	ヒシャギ竹	アルミ		S	空家	山村								
小祖谷	5	トタン	寄棟	－	左	無		7.0	4.0	真壁	漆喰	アルミ		E	空家	山村								
小祖谷	6	トタン	寄棟	2	左	無		5.5	3.0			アルミ		SE	空家	山村							軒張り	
小祖谷	7	トタン	寄棟	2	右	無		5.0		真壁		木製ガラス		SE	空家	山村								
重末	1	トタン	寄棟	2	不明	後付け		7.0	－			アルミ		E	空家	山村	妻側						軒張	
重末蔭	1	スレート瓦	寄棟	2	不明	後付け		5.5	3.0			アルミ		N	居住	山村								
下吾橋	1	トタン	寄棟	1	右	無		6.5	3.5			不明		SE	空家	山村								
下吾橋	2	トタン	寄棟	1	右	無		7.0	3.5			アルミ		SE	空家	山村							出桁	
下吾橋	3	トタン	寄棟	1	左	無		5.5	3.0	真壁	土壁	アルミ		S	空家	山村							現し	

表3　調査民家データ一覧－2

所在地	No.	屋根仕上	屋根形状	下屋形式	勝手	玄関構え	間取り	規模		外壁		外部建具	建築時期	主屋方位	利用形態	屋敷構え	便所位置	モテ規模		内法上部	五尺間		軒裏	備考
								間口	奥行	形式	当初仕上							間口	奥行		梁間	桁行		
下吾橋	4	トタン	寄棟	1	右	無		5.5	3.5			アルミ		S	居住	山村								
下吾橋	5	トタン	寄棟	1	右	無		5.0		真壁		アルミ		S	空家	山村								
下吾橋	6	トタン	寄棟	2	左	無	横二間取	6.0	3.0	真壁		アルミ		S	居住	山村		2.0	2.0					前固め
下吾橋	7	トタン	寄棟	1	右	無		6.0	3.0			アルミ		S	居住	山村								
下吾橋	8	トタン	寄棟	2	左	無		8.0	3.0			アルミ		S	居住	山村								
下吾橋	9	スレート瓦	寄棟	－	右	無		6.0	2.5			アルミ	昭和	E	居住	山村		2.0	2.0					全面下屋を内部化
下吾橋	10	トタン	寄棟	1	左	無		6.0	3.0	真壁		アルミ、障子		S	居住	山村							現し	32,33,34は同一敷地内に横並び
下吾橋	11	トタン	寄棟	4	左	無		5.5	－	真壁	ヒシャギ竹	木製ガラス戸、障子		S	空家	山村							現し	
下吾橋	12	トタン	寄棟	1	左	無		4.0	2.0	真壁	下見張り	障子		S	空家	山村								
下吾橋	13	トタン	寄棟	－	左	無		6.5	3.5			アルミ		E	居住	山村	前							
下吾橋	14	トタン	寄棟	2?	左	有	二間取	4.5	3.5			アルミ	大正	S	居住	山村	－	2.0	2.5					
下吾橋	15	トタン	寄棟	－	無	無		6.0	3.5	真壁		アルミ		S	居住	山村	妻側							
下名	1	トタン	寄棟	3	左	無		6.0	3.5	真壁	ヒシャギ竹	アルミ		S	空家	山村							出桁(三方)	
下名	2	トタン	寄棟	－	左	無		6.5	3.5	真壁				S	空家	山村	前							
善徳	1	トタン	寄棟	2	左	無		7.5	3.5	真壁	ささら子下見板張り	不明		S	空家	山村							出桁	
善徳	2	トタン	寄棟	－	左・妻入り	無		6.5	3.5			アルミ		S	居住	山村								
善徳	3	トタン	寄棟	3	左・妻入り	無		6.0	3.5			アルミ		S	空家	山村	前						出桁	
善徳	4	トタン	寄棟	3	右	無		6.5	3.5	大壁		アルミ		E	空家	山村	前							
善徳	5	トタン	寄棟	1	左	無		6.5	3.5	真壁		アルミ		E	空家	山村	前						出桁(四方)	
善徳	6	トタン	寄棟	－	右・妻入り	無		7.5	4.0	真壁	ヒシャギ竹+漆喰	アルミ		E	空家	山村	前						軒張り	
善徳	7	トタン	寄棟	3	右	無		6.5	3.5	大壁	ヒシャギ竹	アルミ		E	空家	山村	妻側						出桁(三方)	
善徳	8	トタン	寄棟	3	左・妻入り	無		6.5	3.5	真壁	土壁	不明		E	空家	山村	妻側						現し	
善徳	9	トタン	寄棟	3	左・妻入り	無	中ネマ三間取	6.5	3.5	真壁	土壁	アルミ		SE	居住	山村		2.0	2.5					
善徳	10	トタン	寄棟	2	右	無	中ネマ三間取	6.5	3.0			アルミ		E	空家	山村	前	2.5	2.0		○			
善徳	11	トタン	寄棟	1	左	無		6.0	3.0	大壁	ヒシャギ竹	不明		E	空家	山村								
善徳	12	トタン	寄棟	1	左	無	中ネマ三間取	6.5	3.0			アルミ		S	居住	山村								
善徳	13	トタン	寄棟	3	無	無		7.0	3.5			アルミ		S	居住	山村	－							
善徳	14	トタン	寄棟	－	無	無		7.0	3.5			アルミ		S	空家	山村	－						軒張	
徳善	1	トタン	寄棟	1	無	有		10.0	5.0	真壁	漆喰	木製ガラス戸		E	居住	山村	前			長押			軒張	
徳善	2	銅板	寄棟	1	無	無		5.0	－			アルミ		S	居住	山村	－							
戸ノ谷	1	トタン	寄棟	3	無	無		5.5	3.0	真壁		アルミ		S	居住	山村	妻側						現し	
戸ノ谷	2	トタン	寄棟	3	無	後付け		5.5	3.5			アルミ		S	居住	山村	－							
戸ノ谷	3	トタン	寄棟	－	無	無		5.0	3.0	真壁	土壁	アルミ		S	空家	山村	前						現し	
中尾	1	トタン	寄棟	－	無	無		5.0	－			障子		NW	空家	山村	－						出桁	
中尾	2	スレート瓦	寄棟	－	左	無	横二間取	7.0	3.5	－		木製ガラス戸		NW	空家	山村	－							茅→S49:トタン→H17～18:瓦
中尾	3	トタン	寄棟	3	左	無		6.5	3.5			アルミ	大正	N	居住	山村	前	2.0	2.5					築80年　外壁はヒシャギ竹
西岡	1	トタン	寄棟	－	左	無		6.0	3.0			アルミ		E	空家	山村	妻側						現し	
西岡	2	茅	寄棟	－	右	無	中ネマ三間取	6.5	3.5	真壁		板戸		S	空家	山村		2.0	2.5	長押			出桁	
東西岡	1	茅	寄棟	－	不明	有		8.0	4.5	真壁		障子		S	空家	山村				長押			軒張	柱:ケヤキ
冥地	1	トタン	寄棟	3	不明	後付け		7.0	3.5			アルミ		E	居住	山村								
冥地	2	スレート瓦	寄棟	1	右	無		6.5	3.5			アルミ		SE	居住	山村								

3．茅葺き民家の概要

1）屋敷構え

敷地は等高線に沿って横に長く，奥行きが浅い。前面に深い谷を見下ろし，背面に山を負い，ここに石垣を積み，主屋，付属屋は敷地に沿って一列に並ぶ山村型の屋敷構えである（**図4**）。

主屋は谷に向いて建てられるが，その方位を見ると南面するものが多く，日当たりの良い傾斜地に集落が発展したことによるものと思われる（**図5**）。

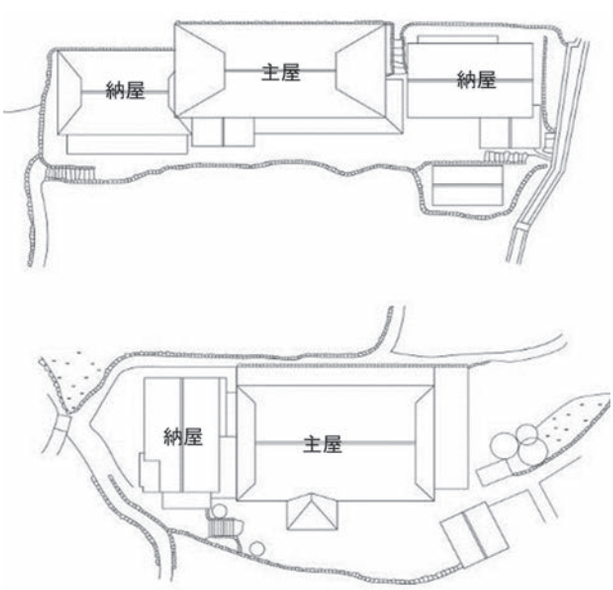

図4　祖谷の民家の屋敷構え

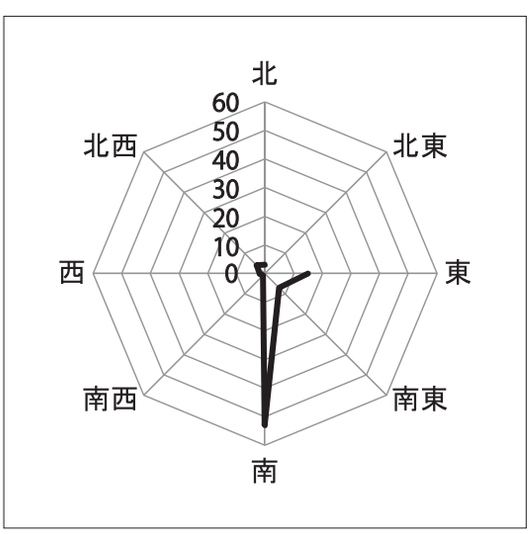

図5　主屋の向き

2）屋根

寄棟造で，茅葺きの大屋根を軒先まで葺き降ろし，庇（オブタ）を設けないのが伝統的な形式とされるが，今回の調査では，屋根形式は全て寄棟造であったものの，茅葺きは2棟，葺き降ろしは22棟，他は屋根をトタンで覆う，正面や側面などに下屋を設けるなどの改変が見られた。

なお，吉野川流域の平野部でよく見られる瓦葺きの下屋が四方に廻る「四方下」は，祖谷地方では珍しい形式であるが，1軒だけ確認できた。

3）軒の構法

古くは野垂木に茅葺きを現しとしていたが，「セガイ」と呼ばれる出桁造りや（**図6**），化粧垂木に板張りの軒天井とする「ノキハリ」（**図7**）が時期は明確にされていないが，新しい形式として導入されている。

今回の調査は，軒の構法が確認できたのは32棟，そのうちセガイが9棟，ノキハリが11棟あった。

図6　セガイ

図7　ノキハリ

4）外壁

外壁は木造軸組に土塗壁で構成されるが，外部に

対して柱を見せない大壁が古式で，柱の中心部に土塗壁を設け，柱を露出する真壁は幕末以降とされている。多くの民家では，外壁にトタンを張り外壁の構法が確認できなかったが，真壁とするものが32棟，大壁とするものが７棟あった。

外壁の仕上げは竹を熨(の)した「ヒシャギ竹」（**図８**）が古くより一般的であったとされるが，ヒシャギ竹のほか，杉皮張りや板張り，漆喰仕上げのほか，土塗壁を現しとしているものも確認できた。

外壁に漆喰塗りを施しているのは，玄関構えや中門などを有する上層と思われる家であった。

図８　ヒシャギ竹

５）規模

規模を間口で見ると，４間と小規模なものから，10間と大規模なものまであったが，多くは５間半から６間半であった（**図９**）。

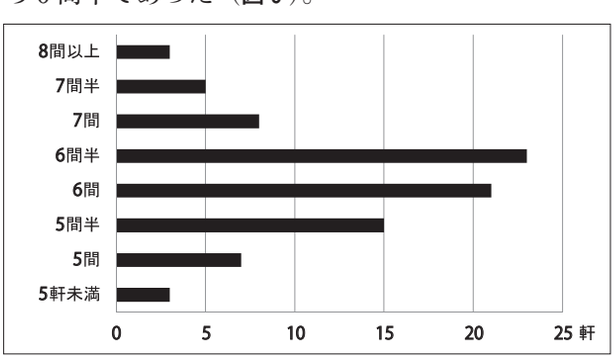

図９　主屋の間口

６）間取り

間取りが確認できたのは22軒，中ネマ三間取が最も多かった（**図10**）。中ネマ五間取は，元々一間取だったものを下手と奥側に増築したものである。二間取，三間取とは，ドマをもたずに座敷を横２～３列に並べる間取りを指し，ドマと座敷が横一列に並ぶ横二間取や横三間取と区別している。二間取や三間取の民家では，正面間口と同じ幅で濡れ縁が設けられ，ドマに通じる勝手を有さない間取りである。ドマを必要としない隠居屋などに多い形式と考えられる。喰違四間取は座敷が鍵型に続き間となり，ネマがナカノマの奥に位置する鍵座敷型である。

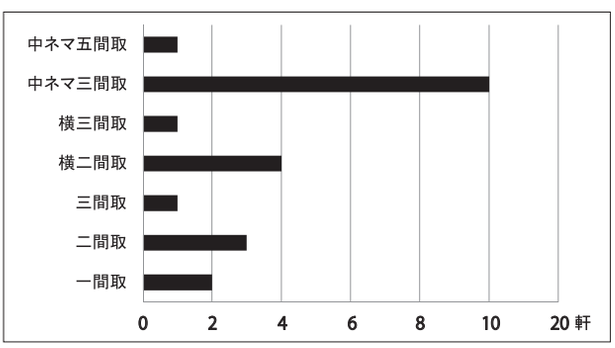

図10　主屋の間取り

７）勝手

外から主屋に向かって右側に入口・土間があるのを「右勝手」，この逆を「左勝手」という。

祖谷地方に限らず，徳島県内では勝手を平側に設けるのが一般的であるが，妻入りを７軒確認した。平入り・妻入りとも左勝手がやや多い（**図11**）。勝手のないものも15軒あり，濡れ縁から直接出入りしている。東祖谷でも確認されているが，祖谷地方以外ではほとんど見られない形式である。二間取や三間取などの土間を設けていない民家に見られる。

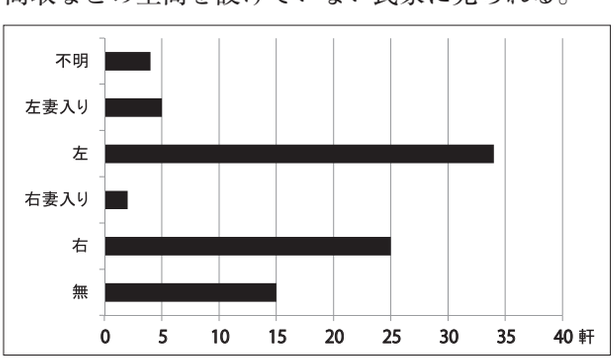

図11　主屋の勝手

８）前便所

ドマとオモテやナカノマとオモテの境の前面に設けられた前便所は祖谷地方でよく見られ，剣山地の民家の特徴とされる。今回の調査では19棟確認できた。また，濡れ縁を妻側まで廻し，妻面に便所を設けるものが９棟見られた。

9）構法

天井や壁の仕上げにより，小屋組や軸組が確認できなかった民家が多かったため，構法に関しては全体的な傾向を示すことはできないが，確認できた民家はいずれも，上屋と下屋からなる「下屋造り」であった。また，柱の内法上部を断面の大きい長押で固める「ヌキダチ」と呼ばれる構法を採用していた家が１軒，表通りの上屋柱を省略するため，内法上部に断面の大きい梁を渡す「マエガタメ」と呼ばれる構法を採用していた家が５軒確認できた。いずれも祖谷地方に特徴的な構法である。一方，柱の上部の断面を絞り，梁を上から落とし込む「コキバシラ落とし込み構法」は確認できなかった。

4．個別民家の解説

1）有瀬－04

当家は有瀬集落の北部，南斜面に位置する。東西に細長い敷地に納屋と主屋，物置が一列に並ぶ（**図12**）。主屋は寄棟造平家建て，間口が５間，奥行きが３間，横一列にドマとオモテが並ぶ一間取である（**図13**）。建築時期は不明であるが，家人によると集落で最古の建物という。オモテは間口2.5間・奥行き2.5間で正面に床，仏壇，押入が等間隔で並ぶ五尺間となっている。また，下手に上屋柱が残るなど，古い要素が見られる。壁は真壁で，側面と背面にはヒシャギ竹の仕上げが見られる。

2）上吾橋－02

当家は上吾橋集落の中程の南斜面に位置する。東西に細長い敷地に主屋・隠居屋・納屋などが建ち並ぶ（**図14**）。主屋は寄棟造平家建て，間口７間，奥行き３間で，左からダイドコロ・ナカノマ・オモテが一列に並び，ドマを有さない三間取である（**図15**）。家人によると昭和２年（1927）の建築で，屋根にトタンを巻いたのは30年ほど前のことという。上手の端部に前便所がある。オモテは間口2.5間，奥行き２間で正面に左から１間の押入，半間の仏壇，１間の床となっている。

3）下吾橋－01

当家は下吾橋集落西部の南斜面に位置する。東西に細長い敷地に主屋や納屋が並ぶ（**図16**）。主屋は寄棟造平家建て，間口7.5間，奥行き3.5間，喰違四間取で（**図17**），家人によると明治20年（1887）の築という。

図12 【有瀬－04】外観

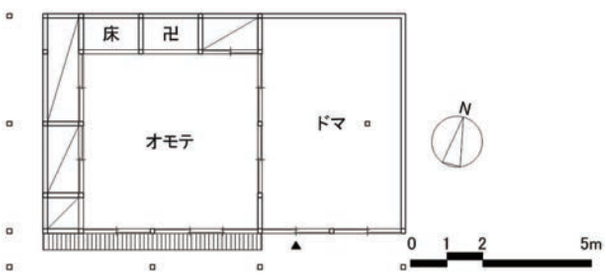

図13 【有瀬－04】間取り

図14 【上吾橋－02】外観

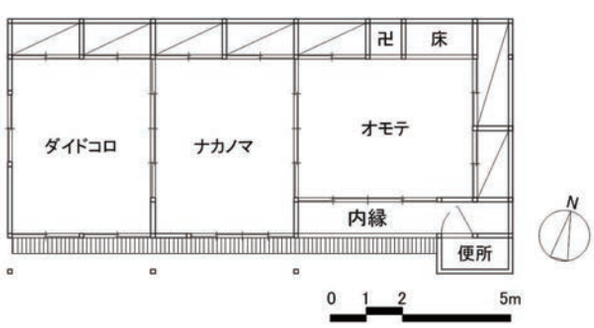

図15 【上吾橋－02】間取り

上手はカミザシキとシモザシキが続き間となり内縁を設け，カミザシキ正面に床と押入を構え，仏壇は設けていない。東祖谷落合集落の長岡家と同じ形式であり，祖谷地方の江戸期の民家には見られないもので，明治以降の間取りと考えられる。

図16　【下吾橋－01】外観

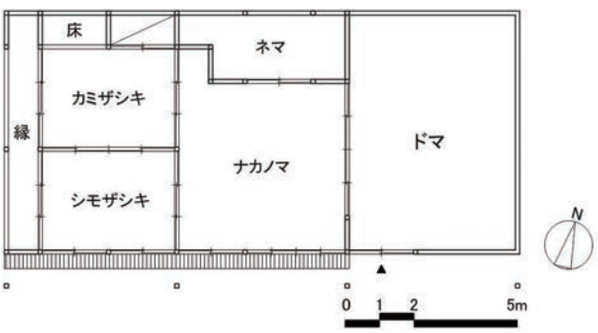

図17　【下吾橋－01】間取り

4）下吾橋－03

当家は下吾橋集落の中程，南斜面に位置する。主屋は寄棟造平家建て，間口６間，奥行き３間，中ネマ三間取である（**図18・19**）。トコノマと呼ばれているオモテは間口1.5間，奥行き２間と小さく，正面に半間の仏壇と１間の床を構える。間口2.5間のナカノマは上屋柱を省略するためマエガタメと呼ばれる断面の大きい梁が見られる。後付けの下屋は前面のみで，下手は内部化されている。建築時期は確認できなかった。

5）下吾橋－08

当家は下吾橋集落の南東部の南斜面に位置する。東西に細長い敷地に主屋や隠居屋が並ぶ（**図20**）。主屋は寄棟造平家建て，間口６間，奥行き３間，左からドマ・ナカノマ・オモテが並ぶ横二間取である（**図21**）。オモテは間口２間，奥行き２間で正面に半間の押入，半間の仏壇，１間の床を構える。ナカノマとオモテにはマエガタメが見られる。前面はアルミサッシが設けられているが，当初から内縁だった。

図18　【下吾橋－03】外観

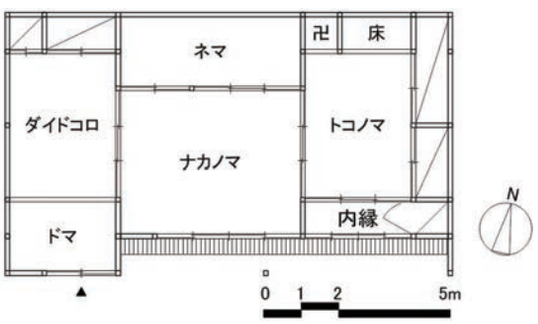

図19　【下吾橋－03】間取り

図20　【下吾橋－08】外観

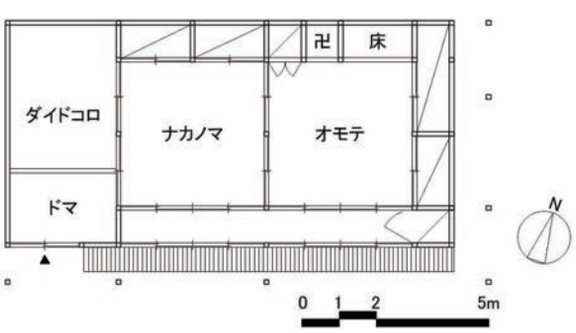

図21　【下吾橋－08】間取り

6）善徳－09

当家は善徳集落の中央部，東斜面に位置する。南北に細長い敷地に南からいずれも茅葺きの主屋，隠居屋，納屋が並ぶ（**図22**）。主屋は寄棟造平家建て，間口6.5間，奥行き3.5間，中ネマ三間取である（**図23**）。オモテは間口２間，奥行き2.5間，正面に半間のそれぞれ１間の押入と床を構える。仏壇はナカノマとネマの境に構えられており，祖谷地方では余り見かけない形式となっている。また，勝手も妻側にあり，正面はほぼ間口一杯に濡れ縁が続き，上手端部に便所が設けられている。建築時期は不明だが，伝統的な形式から自由な部分が多く，明治以降の建築と思われる。主屋だけでなく，隠居屋，納屋も茅葺きで残されているのは珍しく，屋敷構えという観点から貴重な事例である。

図22 【善徳－09】外観

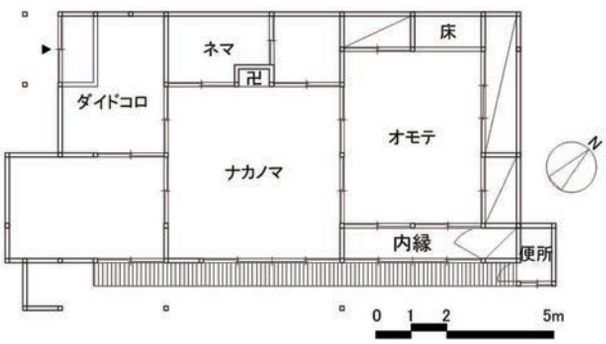

図23 【善徳－09】間取り

7）善徳－11

当家は善徳集落の南部，東斜面に位置する。南北に長いいずれも茅葺きの主屋と隠居屋が並ぶ（**図24**）。主屋は寄棟造平家建て，間口6.5間，奥行き３間，中ネマ三間取である（**図25**）。オモテは間口2.5間・奥行き２間で正面に床，仏壇，押入が五尺間で並び，前面に内縁を設けている。下手は当初間口１間であったものが，後の改造により下屋を取り込む形で1.5間となっている。正面の玄関は前便所を撤去して設けられたものである。建築時期は確認できなかったが，五尺間や内縁など古い要素が見られる。

図24 【善徳－11】外観

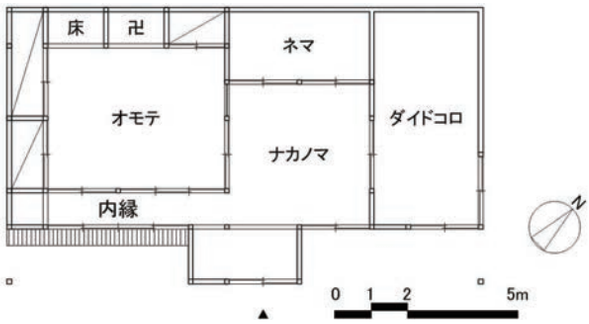

図25 【善徳－11】間取り

8）田の内－02

当家は田の内上集落の中央部に位置する。比較的奥行きのある南向きの敷地に主屋と納屋が並ぶ（**図26**）。主屋は寄棟造平家建て，間口5.5間，奥行き3.5間，ドマを有さない中ネマ三間取である（**図27**）。オモテは間口2.5間・奥行き2.5間で正面に床，仏壇，押入が五尺間で並ぶ。オモテ前面に内縁のような空間があるが，下屋を内部化したものであり，主屋の奥行きは当初３間であった。オモテとナカノマの前面上屋の通りの柱を省略するため，マエガタメが用いられている。軸部は内法上部を長押で固めるヌキダチとなっている。建築時期は不明だが，五尺間とヌキダチといった古い要素が見られる。

図26　【田の内－02】外観

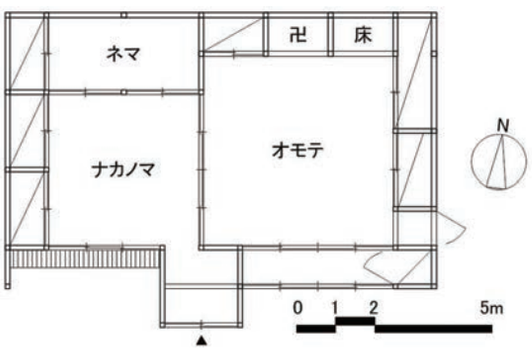

図27　【田の内－02】間取り

9）田の内－05

当家は田の内上集落のやや南寄りに位置する。東西に細長い敷地に主屋と納屋が並ぶ（**図28**）。主屋は寄棟造平家建て，間口６間，奥行き３間，ドマを有さずオモテとヘヤが並ぶ二間取である（**図29**）。オモテは間口，奥行きとも2.5間で，正面に１間の押入，半間の仏壇，１間の床が並ぶ。家人によると，築100年程度ということで，大正期の建築と思われる。屋根にトタンを被せたのは昭和52年（1977）とのことである。ここでも，前面上屋通りの柱を省略するためマエガタメが用いられている。正面中央には前便所が創建当初のまま残されている。前面に下屋を設け南東の角に浴室を増築した以外，内部も含め改変が少ない。

10）徳善家住宅

当家は徳善東集落の南部，東斜面に位置する。2014年に県指定の有形文化財に登録されており，建築年は慶応２年（1866）である。屋根は茅葺入母屋で妻には懸魚を飾る。軒は深く，桔木を配してその下に仕上げ天井を張るノキハリの形式（東・西面）となっている（**図30**）。小屋組みは棟通りを束で支えており，純粋なサス構造ではない。

図28　【田の内－05】外観

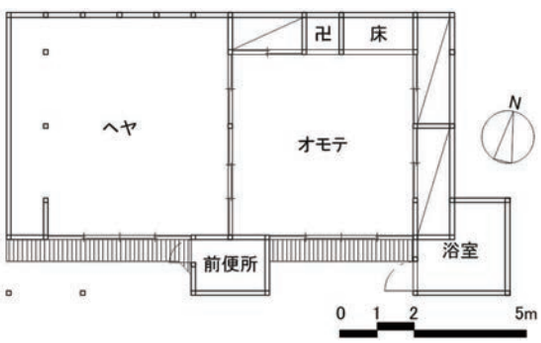

図29　【田の内－05】間取り

間取りは大規模で，間口10.5間，奥行5.5間ほどあり，東祖谷の阿佐家に比べてもかなり大きい（**図31**）。10を超える室数があり座敷側には接客用の玄関，下手には家人用の出入り口がある。男衆部屋や女中部屋など使用人用の部屋もあり当時は大人数で生活していたことが伺える。奥座敷には入らずの間と呼ばれる小室がある。

図30　徳善家外観

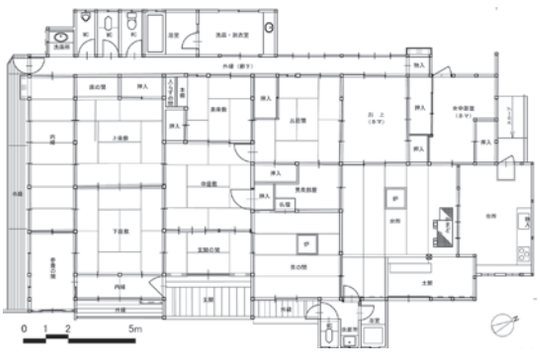

図31　徳善家間取り

11）西岡家

当家は東西岡集落の東部，南斜面に位置する。東西に長い敷地に主屋と土蔵が建つ。2009年に三好市有形文化財に指定されており，建築年は明治30年（1897）である。

主屋は，茅葺寄棟造り平屋建て，大屋根はノキハリとし，周囲に瓦葺きの下屋を配す「四方下」形式をとる。妻側に設けられた玄関構えは「コビラ玄関」呼ばれている。間取りは大規模で，間口9.5間，奥行き4.5間，室数は９を数える。

小屋組は梁間，桁行きとも二重梁とし，棟木を束で支える形式でサス構造とは異なる。柱は全てケヤキで間仕切り壁がほとんどなく，建具を外すと一室となる。

土蔵は木造瓦葺き切妻造二階建てで，主屋と同時期の建築である。置屋根の土蔵は祖谷地方で唯一のものであり，漆喰仕上げの外壁にはコテ絵が施されている。

図32　西岡家外観

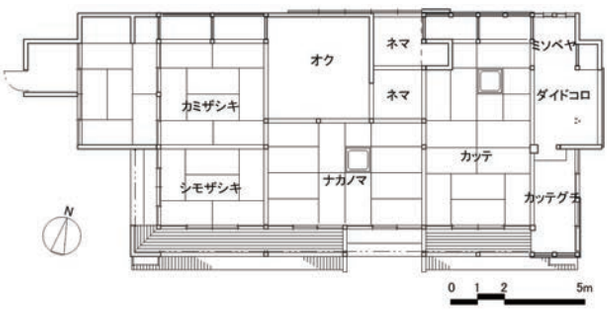

図33　西岡家間取り

4．おわりに

85棟の茅葺き民家を悉皆的に調査し，うち11棟について間取りの採取や建築時期，構法の確認などを行った。間取りに関しては，祖谷地方に典型的な一間取，横二間取，中ネマ三間取のほか，土間を設けず居室を横一列に配置する二間取，三間取と呼べるような民家がかなりあることが明らかになった。構法については，「ヌキダチ」「マエガマエ」は確認されたが，事例数が限られたためか，「コキバシラ落とし込み構法」は確認することができなかった。調査目的に掲げていた編年指標については，建築時期を特定できた民家が少なかったこともあり，新たな知見を加えることができなかった。今後の課題としたい。

最後になりましたが，本調査に快くご協力を頂いた住民の皆様はじめ関係各位に深く感謝いたします。

文献

奈良国立文化財研究所・徳島県教育委員会編（1976）『阿波の民家』

西祖谷山村史編纂委員会編（1985）『西祖谷山村史』

徳島県教育委員会・徳島新聞社（2007）『徳島の文化財』

阿波学会・徳島県立図書館（2007）『阿波学会紀要第53号（総合学術調査報告　三好市旧東祖谷山村）』

Traditional Farm Houses in Nishi-Iyayama Village, Miyoshi City

KITA Junzo*, TAKATA Tetsuo, TAMURA Eiji, HAYASHI Shigeki and FUKUTA Yorito
* 1-5-11, Atake, Tokushima 770-0863, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.62（2019）, pp.57－68.